

ケアマネの部屋

発行日：平成 25 年 3 月 31 日 (No.12)
発行元：浜松市介護支援専門員連絡協議会
ブログ：はままつケアマネの部屋
<http://keamanenoheya.hamazo.tv/>

ケアマネジャーと多職種連携について（浜松市介護支援専門員連絡協議会編）

『多職種連携におけるケアマネジャーの課題について』

浜松市介護支援専門員連絡協議会
会長 栗倉敏貴

先日、ある区の研修会に伺った際に、発題者の看護師長さんと「IPW」に関するやりとりをしたところ、会場から「IPW って何？」「難しい言葉を使われても困る」などという声が、ちらほら聞かれました。すでに IPW=Inter-Professional Work（専門職間の協働）という言葉も、私たちの業界では注釈抜きで使われるようになってきています。「わからなければ自分で調べよう！」。ケアマネジャーが勉強不足に陥って、時代から取り残されてしまわないように、努力してほしいのですが……。

さて、その IPW におけるケアマネジャーの役割は、利用者の生活課題解決のために、保健・医療・福祉の分野をつなぎ、介護サービスを軸とした支援体制を作ることです。

近年、政策側から「ケアマネジャーの医療連携」が求められています。福祉職が基礎資格であるケアマネジャーや、実務十年資格のケアマネジャーの立場にとって、医療の現状についてよく理解し、適切なサービス調整を実現していくことが、本来あるべき「医療連携」の姿です。医療分野についての知見を広め、医療職の専門的意見を尊重する必要がありますが、自らが医療分野を深く掘り下げて該博になる必要はありません。その逆（医療職やリハビリ職のケアマネジャーによる福祉サービス理解）もまた同様です。

従って、ケアマネジャーが IPW の中核として機能していくためには、利用者の医療的なニーズや福祉的なニーズを敏感に感受すること、広い分野の地域資源に関する情報を豊富に蓄積しておくこと、利用者の目標に対応するサービス内容に適合した地域資源を速やかに選択できる能力を、普段から養っておくことが求められます。

本会では、会員の皆さんが多く部門にわたる知見を広め、IPW の中で仕事ができるように、医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、病院の退院支援担当者、福祉施設の担当者、民生・児童委員などの方々と交流する機会を作ってきました。今後、資質向上をめざした研鑽の場をさらに広げていくためには、会員の意識の向上も求められています。自分たちの職能を高めるために何が必要なのか？本会役員や地域包括支援センター任せにせず、皆さん一人ひとりが自らの課題として考えてみてください。



地域包括支援センターの活動報告（天竜区）

森林と水 生命をはぐくむ 天竜区

天竜区は、市の北部に位置しており、天竜、春野、佐久間、水窪、龍山の五つの地区で構成し、市域面積は約 63% 占め、その約 91% が森林の緑豊かな区です。

天竜区には秋葉山、竜頭山等の山々、天竜川には、水窪ダム、佐久間ダム、秋葉ダム、船明ダムと 4 つのダムがあり、天竜美林、良質なお茶や椎茸、自然薯など豊かな地域環境を活かした産物も豊富です。

本地域の大きな課題は、少子高齢化と過疎化です。（浜松市ホームページより）

市内で高齢化率が最も高い地域であり、高齢者世帯や一人暮らし世帯が多く、市街に比べ、近隣の支え合いがあるのが特徴です。

1、 地域包括支援センターの紹介

浜松市内包括の圏域の中で広範囲な中山間地域を担当しており、住民にとって身近な窓口という事で平成 18 年に天竜区、平成 19 年に北遠中央、平成 21 年度から春野、水窪、佐久間に支所が設置されています。

地域包括支援センター天竜は、旧天竜市内、春野地区を担当し、地域包括支援センター北遠中央は龍山・佐久間・水窪地区を担当しています。



天 竜



北遠中央

2、 天竜区地域包括支援センターの担当圏域の状況（平成 24 年 10 月 1 日現在）

	天 竜 (天竜)	春 野 町 (天竜)	龍 山 町 (北遠中央)	佐 久 間 町 (北遠中央)	水 窪 町 (北遠中央)
人口	20,576	5,249	856	4,448	2,587
高齢者人口	6,396	2,192	444	2,276	1,298
高齢化率	31.08%	41.76%	51.87%	51.17%	50.17%

3、 活動内容

平成 19 年度より、医療、福祉、保健の関係者が、地域に密着した情報交換をすることを目的に地域連絡会を地域ごとに実施しています。参加者は、行政・保健師・民生委員・社会福祉協議会・介護支援専門員・事業所・警察署の担当者です。

市街と比較し介護保険サービスが少ないため、インフォーマルなサービスも含めて、高齢者が地域で暮らすにはどのような支援が必要か、ケース事例を通して検討しています。

また、民生委員との交流や連携を地域ごとに行なっています。

中山間地域の環境要因（住宅が山の斜面に立地しており、公道までの段差や距離がある）や、介護力が弱い家庭が多い等の条件により、要介護状態となると在宅生活が困難になるため、早期に対応が必要です。そのため、日々地域住民などから相談が入りやすいよう関係作りに努めています。

広報委員 関口 進

平成 24 年度浜松市介護支援専門員連絡協議会の合同研修会が昨年 11 月 17 日（土）に可美公園総合センターにて開催されました。施設ケアマネ 37 名、在宅ケアマネ 181 名、その他ケアマネ 16 名、合計 234 名（136 事業者）のケアマネが参加しました。

ケアマネを何年か経験していると自分が関わったターミナルケアの事例で「これでよかったのか?! ターミナルケア」と不安を抱いたことがある人も多いかと思います。今回の研修はそんな気になるターミナルケアについて、前半は更に以下の 3 つのテーマに絞って 3 人の講師による貴重なお話がありました。

① 「施設での看取りについて考える」

講師：和合愛公園 大岡郁江 氏

② 「がん末期の利用者さんへの関わりについて」

講師：JA 静岡厚生連遠州病院 原田朝子 氏

③ 「老衰によるターミナルケア期の本人家族への支援について」

講師：聖隷ケアプランセンター和 森井正孝 氏



後半は居宅（13）、施設（3）の合計 16 グループに分かれて「これでよかったのか?! ターミナルケア」をテーマに意見交換をしました。

今回の研修会のアンケート（回収 155 名）では、大変参考になったと回答した方が 82 名、参考になったと回答した方が 70 名いらっしゃいました。感想内容では、これからは「死を考えること＝生を考える」という認識で支援したい、本人・家族の意向を尊重し、急変時の対応を事前に確認しておくことが必要であり、特に医療との連携が不可欠であるという感想が多かったです。また、他のケアマネの事例を聞くことができとても参考になった、ケアマネの役割がとてわかり易かったとの声もありました。

—編集後記—

春は別れと出会いの季節です。様々な人に様々な想いが、時に悲しく、時に希望に満ち、時に自分を振り返らせてくれます。自分は成長できたのでしょうか？今の自分を褒めてあげることができるのでしょうか？ 役員の任期も満了を迎えます。お伝えできなかったこと、お応えできなかったこと、次への課題として引き継ぎより充実していけたらと思います。この出会いは今日で終わるわけではなく、また明日という未来へつながる一歩として…。2 年間ありがとうございました。

『はままつケアマネの部屋』アドレス <http://keamanenoheya.hamazo.tv/>
読者登録をしていただくと、ブログの更新時にメールが自動配信されお知らせしてくれます。
登録は上記アドレスまたは、[はままつケアマネの部屋](#)を検索しアクセス願います。

ご意見やご感想がございましたら事務局までお寄せ下さい。（介護保険課 FAX 053-450-0084）
今後、ますます充実したものになりますよう、関係皆様のご理解とご協力をお願いします。

【広報委員会】 村松佐知子（副会長） 関口 進（中区） 飛田ひさ子（東区） 佐口 明（西区）
鈴木澄男（南区） 袴田佳代子（北区） 榊原和美（浜北区） 平出和代（天竜区）